

株式会社みのり みのり訪問看護ステーション

～職員の『生産性向上』を実現する経営支援サービス～

所在地：京都府木津川市相楽大里71-1

法人設立：2018年5月（みのり訪問看護ステーション：2018年10月～）

従業員数：12名（みのり訪問看護ステーション：5名）

訪問1回ずつの関わりを大切に、利用者様やそのご家族とのコミュニケーションを重要視、サービスに反映させる取り組みが好評を得ている。

木津川市・和束町・京田辺市・奈良市でサービス提供中。

訪問系サービス

訪問看護

ITツール導入のきっかけ

【課題・困りごとなど】

- 事業所開設前に勤務していた事業所では、複写式の紙の記録用紙に記入していたため事務作業に時間がかかっていた。
- 前回までの訪問時等の利用者様情報の確認も、行うことができない状態であった。ドクターへの状態報告も口頭で行うこともあった。
- 代表者自身が、保険請求を行うのは初めてのため、不安な点が多々あった。

【導入のきっかけ】

- ①事業所開設・サービス提供開始に向けて記録業務や国保連請求業務をどのように行うべきか、検討を行っていた。
- ②過去経験より、ICTツール（特にタブレット）を活用しての電子記録化はサービス開始時より必須であると考えようになった。
- ③知り合いのケアマネよりITツール（カイポケ）を紹介してもらい、トライアル利用を開始した。

タブレット連動で素早い書類作成と
情報共有を実現、
請求業務まで一気通貫



導入したITツール

カイポケ経営支援サービス
(株式会社エス・エム・エス)

- 訪問先でタブレットで記録を入力し、その場でパソコンに連携され迅速に情報を共有。記録書の転記作業も不要であるため、業務時間を有効活用できる。
- 必要な情報をデータで管理しており、他事業所や医療機関との柔軟な情報共有が可能。いつでも情報を確認できるので、緊急訪問の際も安心。

活用フロー



- 看護職員は、紙で利用者情報を確認（利用者ファイルを持ち歩く）、支援記録等も紙で記入している。
- 訪問終了後、事業所に戻り各種記録帳票の作成、管理者への報告を行う。

タブレットによる情報確認、記録入力の開始

- 看護職員は、訪問先にてタブレットから利用者情報確認、記録作成。
- 皮膚状態や保険証は、タブレットで撮影・保存。

- 即座にパソコン連携
- スピーディな情報共有が可能に
- 写真を報告書に添付し、視覚的に報告を実施

など

導入効果

看護職員1人・1日あたり訪問件数

1.5倍 (4件→6件)

- 記録時間が少なく、訪問後に事業所に戻っての報告も不要（管理者はタブレットを見ればすぐに状況確認が可能）なため、看護職員1人あたり1日の訪問件数が増加し、事業所の収益向上に寄与した。
- 他事業所、ドクターとの情報共有レベル、スピードが向上。1年目の実地指導もタブレットのデータを活用し、特別な準備をする必要はなく対応することができた。
- 複雑な医療保険請求の計算も、エラー内容表示機能により、スムーズに実施できている。
- 訪看ステーションの安定した立ち上がりにより、創業当初より考えていた他サービス展開（開業）を予定通りに実施。

～事業拡大に必要な『業務効率化』の実現に向けた経営支援サービス～

所在地：岐阜県各務原市つつじが丘5-61

法人設立：2015年5月（訪問介護HandsCare：2015年8月～）



従業員数：30名

常に利用者様のそばに寄り添い、自立の可能性を最大限に引き出すサービス提供が好評を得ている。女性の社会進出・社会復帰にも積極的に取り組み中。各務原市・犬山市・可児市・岐阜市等でサービス提供中。

訪問系サービス

訪問介護

ITツール導入のきっかけ

【課題・困りごとなど】

- 介護記録はヘルパーが1枚ずつ全て紙に記入しており、サービスの拡大に伴い大量の紙の介護記録がどんどん積み上がっていく状態であった。
- 会社として事務を2名雇っていたが、事務担当が2名ともほぼ1日中、介護記録の確認・チェック等に追われていた。
- 介護保険請求は、開業当初より外部委託していたが、サービス拡大とともに委託料がかさむようになっていた。

【導入のきっかけ】

- ①作業の多さを何とかしな自社のサービス・利用者様が拡大していく中で、事務ければ事業拡大が難しいと考えていた。
- ②5年間の保管義務がある介護記録（紙）の保管場所も何とかしなければいけないと考えていた。
- ③介護保険請求の委託料含め、事業拡大＝比例的なコスト増の回路をどうすべきか考えている時期に、介護・福祉に関する展示会でITツール（カイボケ）に出会った。



ヘルパーが訪問先で簡単に記録を入力



導入したITツール

カイボケ経営支援サービス
(株式会社エス・エム・エス)

- 訪問記録（サービス記録）は、ヘルパーさんが訪問先にて、タブレットやスマートフォンから簡単に入力。入力された内容は、サービス提供責任者や事務員がすぐに内容を確認できる。
- 確定したサービス実績を元に、国保連請求から利用者様請求まで実施可能。ヘルパーのシフト組み・勤怠管理、給与計算等もデータ連動により処理が簡単。

導入効果

- ①事務に関する時間
- ②保険請求の業務委託費用



①月100時間の削減
②月約10万円（年120万円）の削減

活用フロー



- ヘルパーは訪問記録を紙に手書き記入
- サービス提供責任者、事務員は紙ベースの記録をチェック、保険請求に必要なデータ作成も紙からの転記作業

タブレット・スマホによる記録入力の開始



- 訪問先にてヘルパーがタブレット/スマホより記録入力
- 入力された内容は社員・事務員がすぐにPC上で確認可能

- 紙の訪問記録の回収・管理等がなくなり、事務員が業務時間の中で計画的に記録チェック
- サービス実績データからそのまま国保連・利用者様請求データの作成へ

● ITツール導入前は事務2名が1日中紙書類のチェック・管理等を行っていたが、今では1.5名で余裕がある状態に。

● サービス提供責任者は、利用者人数拡大後も事務業務に時間を取られることなく、ヘルパーとの同行訪問・育成に注力できている。会社全体的に余裕が生まれ、新しい取り組みを行える状態、利用者様、ご家族様への対応レベルも向上することができた。

● 紙の訪問記録を無くす際には、自治体と事前の協議をよくよく実施した。最初は拒否感があったヘルパーさんも、今ではスムーズに記録を入力し、外国人ヘルパーの方にも活用してもらっている。

● サービスの拡大とともに増加していた、保険請求のための業務委託費用は0円へ。

● ITツールを活用することで、恐れることなく事業拡大を進めることができるようになった。

株式会社つるかめ 小規模多機能いこいのつるかめ

～『いつでも家で暮らす』の実現に向けた見守りシステム～

所在地：山形県天童市大字小関1204-5

会社設立：2004年（小規模多機能いこいのつるかめ：2014年）

従業員数：170名（小規模多機能いこいのつるかめ：17名）

自立支援へ積極的に取り組むサービスに高い評価を受けている数多くのメディアにも取り上げられ全国の介護施設・自治体より毎日のように視察が殺到。天童市・東根市・山形市・寒河江市でサービス提供中。



訪問系サービス

小規模多機能居宅介護

ITツール導入のきっかけ

【課題・困りごとなど】

- 単身や高齢者世帯だと、在宅生活の状況が断片的にしか見えてこない為、対応する職員の経験値に頼ったサービス提供が基本となっている。
- 『宿泊』および『通い』サービスに利用が偏ってしまい、サービスバランスが悪いく稼働率低下を招いている。
- 宿泊サービス利用時、夜間、頻繁にトイレ離床される利用者様のご自宅の様子はどうなのか知りたい。など

【導入のきっかけ】

- ① 弊社の入居系施設で既に導入していた見守りセンサーのクラウド版が発売開始され、遠隔地（在宅）にいる対象者の状況把握が可能になったことにより、訪問サービスの効率化も期待できると思われた。
- ② 離れて暮らすご家族が、単身や高齢者世帯の親を心配するだけでなく、スマホで見守れる安心感がある。
- ③ 必要時は駆けつけサービスを依頼できるのが大きな魅力。

利用者状況 一元把握



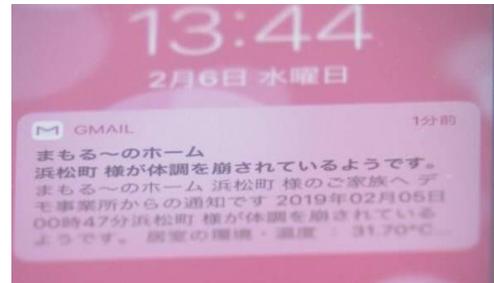
【通知メール配信機能】

事業所だけに限らず、設定次第で離れて暮らす家族にもメールが通知されるので安心

導入したITツール

まもる～のHOME
(株式会社まもる～の)

- ベッドに設置したセンサーにより利用者様の睡眠・離床・部屋の環境をとらえ、離れた場所にいるご家族や介護施設職員に状況をお知らせします。
- センサーの異常信号を受信した際、必要に応じて「かけつけサービス」を利用することも可能です。（ALSOKと別途契約：有償）



活用フロー

- ・通いと泊りで定員がいっぱいになり、訪問の定員は空きがある。
- ・新たな通いと泊りの希望者を受け入れできない。



- ・通いと泊りに希望が偏りが生じ、定員に達する前に通所や宿泊希望者で埋まってしまい、4新規獲得ができなくなる。
- ・定量的な状態把握が出来ないため、職員の経験値に頼った対応になっている。

在宅センサーの取付

- 自宅での生活状況把握、異常時通知が可能になる。インターネット環境が無いお宅でも設置可能（wifiルーターセット）
- 離れて暮らす親を見守れるとご家族からも好評



- 起床を確認してから迎車手配
- 普段の睡眠の質を把握
- 生活リズムが分かるので自宅対応が可能（訪問サービスで十分！）

など

導入効果

利用者の夜間覚醒回数

50%/日の削減

・通い・泊り・訪問のバランスを再編できる為、新規利用者のニーズにお応えしやすい環境が整う。新規利用者（登録者）を増やす事が可能になり結果として、事業所の収益改善に寄与した。

・夜間覚醒回数/トイレ離床を客観的にデータ化し、利用者様・ご家族様と情報を共有。服薬状況等を改めて見直し、「尿意を抑える薬」の処方を開始。過剰気味であった夜間覚醒の回数も当初の半数以下に抑える事が出来、利用者様の睡眠満足度も向上。

・臥床時間が著しく増えてしまった方がおり、状況を確認。「自宅でも何もする事が無く、ただ惰性で臥床している」ことが判明。そのままでは廃用症候群がすすみ身体・認知機能の低下が予測される為、利用の提供内容を見直しに着手。また送迎時も起床を事前に確認してから訪問をする事で効率化を図った。

株式会社ほっとステーション レッツ倶楽部立会川

～高齢者の笑顔と元気を取り戻す！リハビリ型デイサービス『レッツ倶楽部』～

所在地：東京都品川区西五反田1-3-8

法人設立：2006年5月（レッツ倶楽部立会川：2012年5月～）

従業員数：150名（レッツ倶楽部立会川：15名）

事業所数：全国150事業所（直営14事業所）

通所系サービス

通所介護

ITツール導入のきっかけ

【課題・困りごとなど】

- 介護の基本報酬が減少しており、差別化による新規利用者獲得と各種加算の算定による単価増が重要。
- 加算算定に必要な、個別の帳票作成や日々の記録など「量・質」ともに業務負荷が大きい。
- 新しい取り組みの開始、および業務負荷発生により、通常サービスに支障が発生するなど否定的な職員がいる。

【導入きっかけ】

新しい加算の開始で新規利用者の獲得と収益改善が可能。専門的な知識がなくても機能訓練加算の導入が可能。

※スタートアップ支援含む
最小限の業務負荷で加算の算定が可能。

専門的な医師や教授が監修しているため、内容もしっかりしている。

使用中の請求ソフトとAPI連携しているため二重登録不要。



導入したITツール

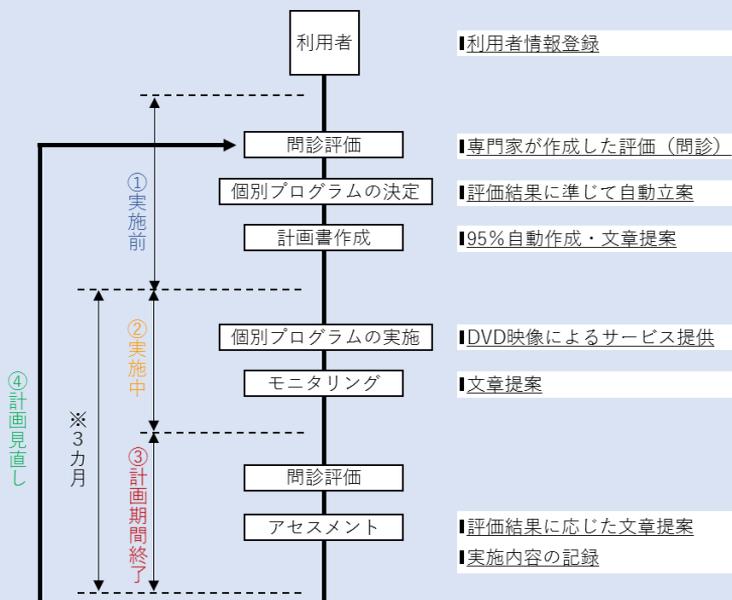
自立支援型デイサポートシステム
『ACE』
(QLCシステム株式会社)

- 問診（評価）を回答すると自動的にリハビリプログラムの提案がされる
- 帳票作成・記録が90%以上自動的に提案・作成され業務負荷が軽減する。
- QLC介護システム（請求ソフト）と連動している

予定管理画面



活用フロー



導入効果

機能訓練加算の帳票作成作業



約140時間/月の削減

・機能訓練加算（口腔機能向上加算）を開始し、差別化による新規利用者獲得に加えて利用単価が約10%UPした。

・計画書作成時間が140時間短縮（売上600万円の事業所）し、プログラムの立案や習得に必要な時間も短縮した。

・専門的な知識がなくてもサービスの提供～計画書作成まで、簡単に実施できるため職員に賛同を得て導入ができた。導入後、訓練実施により利用者の身体機能が改善し『やりがい』に繋がっている。

株式会社富士達 早稲田イーライフ辻堂

～経営理念『食を通して、地域社会のかけがいのない存在になります』～

所在地：神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-4

法人設立：1988年2月（早稲田イーライフ辻堂：2018年9月～）

従業員数：2,100名（早稲田イーライフ辻堂：4名）

事業所数：3事業所(2020年3月現在)

地域のニーズを踏まえ新規事業として、機能訓練特化型通所介護サービス「早稲田イーライフ」を運営。

通所系サービス

通所介護

ITツール導入のきっかけ

【課題・困りごとなど】

- 通所介護施設における、利用者様の身体機能や機能訓練の効果測定には、項目の多さや指標が専門的であるため、多くの時間を要する。
- 測定に関わる作業や記録の手間は、介護に要する時間が短くなる。
- 専門的な知識を要する評価項目では説明が難しいうえ、利用者様にも理解していただきづらいため、日々の運動のモチベーションにつながりにくい。

【導入きっかけ】

- ①身体機能測定について、デバイスを使用することで、工数を削減しながらも、職種に関わらず『誰でも・どこでも・簡単に分かり易く』利用者様の身体機能の評価が可能。
- ②測定に関わる業務の効率化を図り、利用者様との日々のコミュニケーションやフィードバックに、もっと時間を使うことができる。分かり易い指標を契約書へ反映できる。



導入したITツール

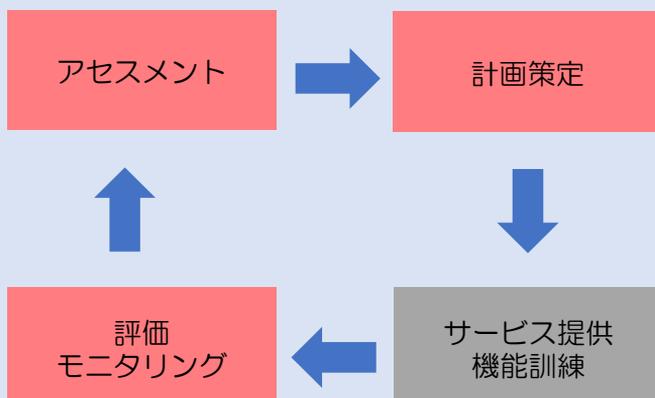
歩行解析デバイスAYUMI EYE
(株式会社早稲田エルダリー事業団)

- 3軸加速度センサーとiOSアプリを用いて、歩行時の加速度データに基づき歩行機能を「推進力」「バランス」「リズム」の3点から分析するデバイス
- 測定時間は約10秒、簡単操作・即時解析・安全実施
- 誰でも・いつでも・簡単かつ分かり易い指標は利用者の意識や行動変容に最適！



活用フロー

利用者様の状態把握からプログラム設定とそれに必要な評価で活用



※測定結果はクラウドサーバーへ自動保存されるため、記録の手間なし。

導入効果

身体機能の測定に関わる業務

約25時間/月の削減

- 利用者様の日頃の運動の効果測定として、AYUMI EYEを活用することで、大幅な工数削減に（30時間→5時間）
※実利用者数100名規模
- 介護職員でも理解しやすい測定結果を用いることで、本来重要であったコミュニケーションやフィードバックの時間を持つことができるようになり、利用者の満足度・利用率が向上した。
- 身体機能の分かり易い指標は、通所介護事業の他に地域支援事業での活用もできる為、地域とのかかわりが増えた。

医療法人芙蓉会 メディカルケア南ヶ丘

～ICT健康管理システムの導入で労務時間削減と科学的健康管理の実現～

所在地：福岡県大野城市大字牛頸1034-5

法人設立：2015年5月1日

従業員数：80名

医療難民救済を掲げ、要介護度の高い入居者専用施設として開設
筑紫南ヶ丘病院と連携し、入居者様をサポート

施設・宿泊系サービス

介護付有料
老人ホーム

ITツール導入のきっかけ

【課題・困りごとなど】

- 非典型的な高齢者一人ひとりに合わせた健康管理に対し、経験による差が出てしまう。
- 介護と医療の情報連携が不十分。
- 紙記録の作業に時間が割かれる。

【導入きっかけ】

- 看護師の健康管理業務をシステム化し、高齢者に対しテーラーメイド診断を行うシステムを自社開発。
- 介護記録ソフトは他社ソフトを導入するも効率化せず。補助事業で自社開発し効率化に成功。
- 請求機能については他社ソフトと連動。



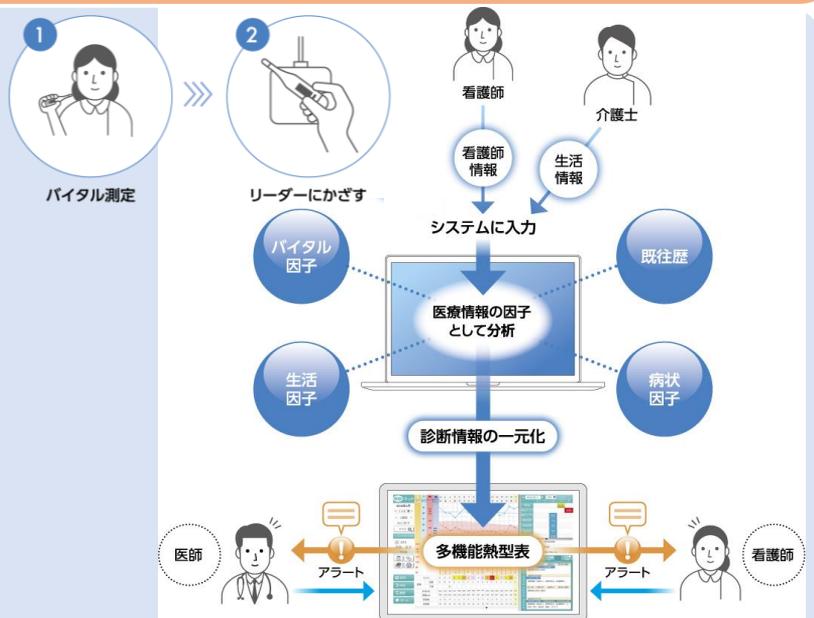
導入したITツール

安診ネット カイゴ
(芙蓉開発株式会社)

- バイタルから、健康管理リスクを科学的に算出する実績とエビデンスがあるシステム。
- 介護と医療における多職種間での情報連携が可能。
- 各職種（介護、看護）で入力された情報について、各職種が必要な形で自動的に整理、記録物を自動作成やアラートングする。
- 「ケア樹プラス」はクラウド型介護請求ソフト。「安診ネット」とクラウド上で連動することで相互に情報を共有。



活用フロー



導入効果

ICT導入による省力化
(介護記録・熱型表作成等)

約168時間/月の削減

- バイタルスコアによる健康管理へ移行。状態悪化の異常値検知は非常に高い精度。
- ※厚生労働科学研究で検証し、良好な結果を得る
- 労務時間を大幅に削減による残業減。
- 看護や介護、さらに医師との情報連携により、入居者様一人ひとりの状態を経時的に把握し、サービスの提供を行っている。

～RPA（ソフトウェアロボット）による介護ソフト自動操作で残業削減・働き方改革を実現～

東京都東京都葛飾区柴又4丁目26-11
 法人設立：平成19年10月
 従業員数：42名（ひかりデイサービス柴又：6名）
 事業所数：8事業所(2020年3月現在)
 機能訓練型デイサービス

通所系サービス

通所介護

ITツール導入のきっかけ



株式会社
ワズスタイル



- 【課題・困りごとなど】**
- 月末月初での事務集中は不可避、通常営業を終了した後、残業時間で事務処理を行うことが多かった。
 - ケアマネへの実績報告は、利用者全員分を紙で出力、ケアマネ単位で仕分けし、手持ちまたはFAX送信と、非常に時間を要する作業だった。
 - 同一介護ソフトでデータ連携可能な場合が少なく、例外処理となりミスが発生しやすい状況だった。
 - FAX送信分のシュレッダー廃棄も手間

- 【導入のきっかけ】**
- 全国介護事業者連盟の紹介。
 - Vleライナック社に事務関連の業務分析を依頼。様々な事務の改善余地が抽出された。
 - 残業削減には、月末月初のケアマネ実績報告業務が効果的と想定された。
 - 実績報告はFAX送信のみとし、RPAでの効率化を検証。
 - 請求のファクタリングや、予実の集計にも拡張を想定。



ひとりひとりの『スタイル』を大切にしています



月末月初は
残業が当たり前
だったのに
送迎後すぐに
帰れるように
なりました！

導入したITツール

『丸投げくん』PREMIUM月締め日
 (株式会社Vleライナック+株式会社SMS)

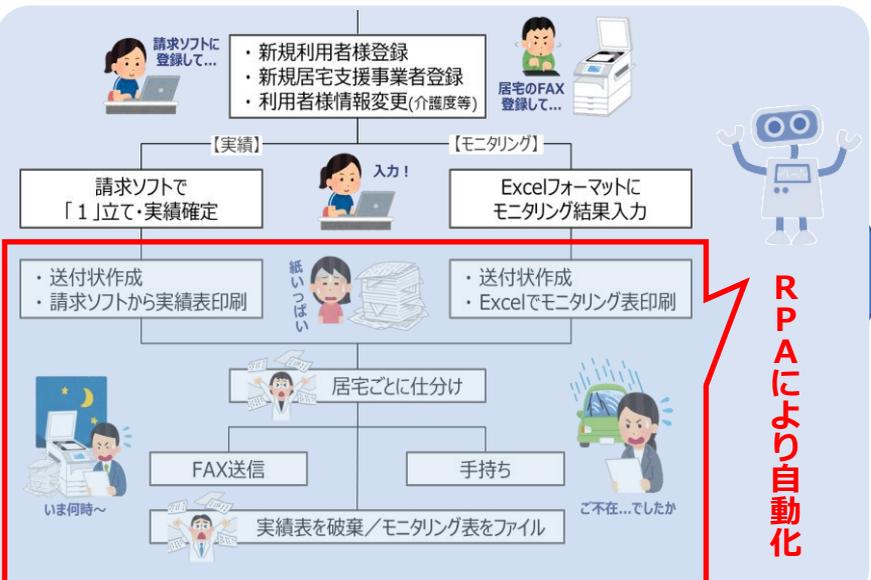
- 「丸投げくん」シリーズは、介護関連事務の効率化を目指した介護ソフト連携のRPAシナリオテンプレート。
- 現場の実務に忠実なシナリオ。RPA運用委託も可能。
- インターネットFAXと組合せ、介護ソフトからのデータ抽出～帳票作成～FAX送信～結果報告、という一連の事務をRPAで自動化。

FAX 送付のご案内

2019年7月2日

RPAにより自動作成・送信される帳票

活用フロー



RPAにより自動化

導入効果

月末月初の残業時間
 約20時間/月の削減

- 月末月初の残業時間削減。
- 意識のみに留まらない、働き方改革の具体的な施策とすることが出来た。
- RPAにより、夜間・休日を問わない自動操作を実現、ケアマネへの報告リードタイムを短縮、ヒューマンエラーも未然防止。
- FAXという現時点での現場の現実的な手段を利用しながら、事業所内のペーパーレス化を実現。仕分け・保管といった付帯業務を軽減出来た。
- これをきっかけに、請求ソフト内の情報整備を推進出来た。

レストーレ下館 ケアプランセンター

～外出先で必要な帳票作成、保険請求も簡単に～

所在地：茨城県筑西市菅谷1637

法人設立：1993年（レストーレ下館ケアプランセンター：2012年～）

従業員数：16名（レストーレ下館ケアプランセンター：2名）

併設するデイと連携しご利用者様の希望に沿いながら迅速な対応が好評を得ている。筑西市・桜川市・結城市でサービス提供中。

居宅介護支援

ITツール導入のきっかけ

【課題・困りごとなど】

- 法人全体としては、併設する通所介護事業所で記録や請求業務などにおいて、非効率な面が発生していた。
- 利用者様訪問や担当者会議に参加する際に、福祉用具カタログや紙の帳票を持ち運んでいた
- 事業所のインターネット環境が不調な時に、事務作業ができずに困ることがあった。

【導入のきっかけ】

- ①代表者がセミナーに参加し、ICT化の必要性を再認識し全社的（通所介護・居宅介護支援）な導入検討を開始した。
- ②通所介護事業所にて先行してお試しを行い、記録・請求業務がスムーズになりそうな実感を持たた。
- ③ITツールの導入・移行に大きな負荷も発生しなさそうな目途が立ち居宅介護支援事業所でも導入推進を決定した。

タブレットを活用して
各種書類作成



【提供表送信機能】
サービス提供事業所への提供表送信が1クリックで可能

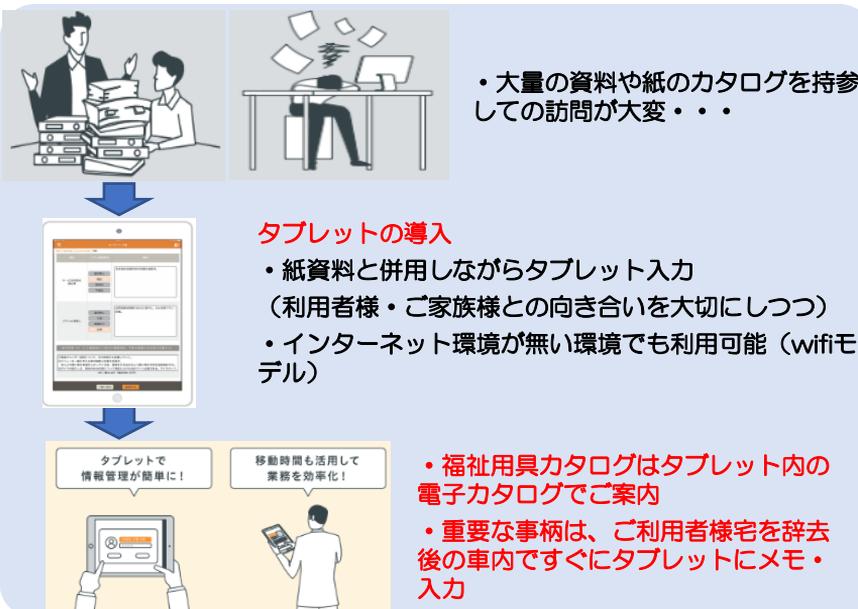
導入したITツール

カイボケ経営支援サービス
(株式会社エス・エム・エス)

- **タブレットを使って移動時間に記録や支援経過を入力でき、移動・すきま時間も有効に使用可能。**
- **福祉用具カタログなどはタブレットで確認できるので、重い荷物を抱えて移動する必要なく、その場で限度額も確認可能。**



活用フロー



導入効果

保険請求業務の事務時間

利用者様の数が2倍になっても
作業時間は変わらず

- ケアマネジャーの人数も増え利用者が増加したが、保険請求に関する事務時間は利用者人数増加前と同様の時間で実施できている。
- ケアプラン各表（担当者会議の議事録）から支援経過の作成がスムーズに実施できるため作業時間が短縮できている。担当者会議が続く際、作業量が多い時にはタブレットですきま時間で作成するなどケアマネジャー業務の効率化ができています。
- 保険請求処理で不明な点も、ITツール（カイボケ）内のQAシステムで自己解決できるため、問い合わせ時間の抑制ができています。また同画面上より制度情報もキャッチアップできています。